

【審査員特別賞】

みんなが歩む道

長浜市立高月中学校 1年 今岡 愛唯

ある日、家族で行った買い物の帰り道でした。お父さんが車の急ブレーキを踏みました。前の車数台も同じようにブレーキを踏んでいました。何があったのかなと見ていると、普通では考えにくいゆっくりしたスピードで、左に曲がろうとする車が見えました。その車には、一生懸命前を見ながら運転している、お婆さんの姿が見えました。運転手のお父さんは、「そろそろ免許を返納せなあかん時期なんかな」とつぶやいていました。また同時に「でもこんな田舎で車が運転できなかつたら、不便なんやろな」とも言っていました。私はお父さんに、何故急ブレーキになったのかを、聞いてみました。お父さんが踏んだ急ブレーキは、前の車が急ブレーキだったからでしたが、お父さんは、急ブレーキを踏んだ前の車の運転手さんは、前の車があんなにゆっくり曲がることを、想像していなかったのだろうと言っていました。つまり乱暴な運転ではなくても、遅すぎる運転も事故につながる可能性はあるのだと感じました。

お年寄りの事故に対して過剰に免許の返納が必要だと言う人がいると聞いて、お年寄りに対する差別だと感じていました。老害などという心無い言葉まで使われるようになり、寂しいような、悲しいような、いずれ誰もがそうなるのであろう、お年寄りに対する言葉のひどさに、本当に嫌な気持ちになります。ただ、人により様々だと思いますが、年を重ねると、やはり判断力が鈍るものです。最近のニュースでよくみかける、アクセルとブレーキの踏み間違いだけでなく、ゆっくり過ぎる運転による追突などの危険性も考えると、やはり適切なタイミングでの免許の返納は、お年寄りに対する差別などではなく、安全な社会の中で必要な事だと感じました。運転される本人はもちろんの事、まわりの人達の安全性の確保と同時に大切な事は、免許を返納する時期だと判断されたお年寄りに対する、心のケアと行動範囲が制限されるという現実に対するケアだと感じました。

現在、運転免許、高齢者などのキーワードで検索してみると、七十才以上の運転免許の更新時には、高齢者講習を受ける義務が発生し、七十五才以上の更新になると、高齢者講習に加え、認知機能検査の受検や運転技能検査の受検も必要になるようでした。任意ではなく、義務化されているということに安心したと同時に、高齢者講習には合格や不合格はなく、受講すればそれでいいようでした。ただこの講習には、教官からのアドバイスなどももらえるようなので、返納を意識するタイミングの一つになりえるのだなと思いました。この検索をしている中で、ある新しい免許に興味を持ちました。それはサポートカー限定免許でした。この免許は、自動ブレーキなど安全に関する最新技術が搭載され

た車のみを運転出来る限定免許なのです。私がこの免許に興味を持った理由は、安全をサポートしてくれるという部分ではなく、普通免許の状態から、限定免許に自主的に変更することで、なかなか踏み出しにくい免許返納への道の、第一歩を自ら踏み出すことが出来るようになったような気がしたからです。運転免許に関しての対応は、少しずつなのかもしれませんが、着実に高齢化社会に向けて、進んでいるのだなと実感しました。またこの免許更新のシステムは、免許を返納しなければいけないのだと、高齢者の方が少しずつ実感できるような、心のケアにも、つながっているのではないかなと思いました。

私がもう一つ気になった、行動範囲が制限されるという現実についても、考えてみました。やはり一番不便になるのは買い物だと思いました。スーパーなど買い物が出来る施設から自宅が遠い方はどうするのか。これについては、検索してみても具体的な対策は見つかりませんでした。私は、ウーバーイーツを一番に思い浮かべました。買いたい物を注文して、購入してもらい配達もしてもらう。この配達に関わる費用のみを、免許を返納された方を優遇する仕組みで国が補助をする。買い物だけが困る訳ではないと思いますが、免許を返納すれば、買い物が楽になると思ってもらえるだけで、免許の返納率はあがるのではないかなと考えました。

私は運転技術が衰えていくことを、けなしたり、馬鹿にしたりするのではなく、それを当たり前だと考え、どうすれば安全を確保出来て、どうすれば不便にならないかを考えなければいけないのだと思いました。これから日本は高齢化が進みます。お年寄りを差別しているだけでは、何も解決しません。誰もが歩む道なのです。その道の先に、希望が見える社会にするために、一人一人が自分のことだと考え、人を尊重し、支え合い、助け合える未来を創造していきたいなと思いました。